



世界のM & A、第3四半期は米国で活況 欧州・アジアは低調だった



[ニューヨーク 29日 ロイター]-

米調査会社ディールロジックによると、第3・四半期の企業の合併・買収（M & A）案件総額は7174億ドルで、前年同期の7381億ドルから小幅減少した。欧州やアジア太平洋地域は低調だったが、米国のM & Aが活況で、案件総額に占める割合は約半分に達した。

法律事務所サリバン・アンド・クロムウェルのメリッサ・ソーヤー氏は「2021年のような活況はないが、M & A終焉という見方は誇張されている」と述べた。

米国の案件総額は3565億1000万ドルで前年比35%増加。一方、欧州とアジア太平洋地域は31%、9%、それぞれ減少した。

高金利を背景にレバレッジド・バイアウトの資金調達環境は厳しく、プライベート・エクイティ（PE）の動きは低調だった。案件総額は前年比48%減の3137億3000万ドルだった。

通常案件全体に占める割合が最も高いテクノロジーセクターは年初から51%減少。一方、ヘルスケアセクターは25%増加した。